

平成 25 年度第 2 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| ■日 | 時：平成 25 年 10 月 24 日（木）18：30～19：40 |
| ■場 | 所：市役所西棟 8 階 811 会議室 |
| ■出席委員 | ：8 名（欠席 1 名） |
| ■事務局 | ：高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会 |

1 開会

2 配布資料確認

事務局より配布資料の説明

3 議事

(1) テンミリオンハウスくるみの木運営希望団体ヒアリング

【特定非営利活動法人ワーカーズどんぐり（以下ワーカーズどんぐり）】

（プレゼンテーション）

それでは、ワーカーズどんぐりのくるみの木の事業提案をさせていただきます。まず初めに、運営団体のワーカーズどんぐりについてご紹介します。ワーカーズどんぐりは、2001 年に任意団体として立ち上がり、NPO 法人格を取得した後は、市やほかの法人からの委託事業を請け負い、2008 年に介護保険の事業所となりました。同年、テンミリオンハウスくるみの木の運営団体にもなり、以降は障害者にかかわる事業も進めています。また、昨年度から桜堤でグループ保育室を運営しています。ワーカーズどんぐりは、自立支援の視点で乳幼児から老年期の方、一人ひとりのライフステージを支えるいろいろな事業を展開しています。現在、メンバー 37 名で活動しています。

それでは、テンミリオンハウスくるみの木の事業内容についてお話します。今までの 5 年間の実績とともに 26 年度からの提案をご覧ください。

くるみの木の運営理念は、誰もが参加できることです。出会って、語り合い、わかりあいます。そして、つながります。今回の応募にあたり、くるみの木の利用者と講師の先生方、中央福祉の会の方々からご意見を伺いました。また、地域のニーズを探るために、中町、御殿山 2 丁目を中心に、パンフレットとアンケートを 6,000 部配布しました。ご意見を少しご紹介します。「土曜日にランチをしてほしい」「男性がもっと参加できるように工夫してほしい」「ランチが大変美味しくて楽しみ」「地域の団体に協力され感謝しています」「身内に感じられるような暖かさですっぱり包まれ、スタッフの方々が優しく親切で大変居心地の良いところですよ」「年を取って近くに通えるところがあることを感謝します」な

ど、いろいろご意見をいただきました。

これは、くるみの木の来訪者数をまとめたグラフです。24年度には65歳以上の高齢者の数が6,000人を超えました。25年度は9月現在、登録者数212名で、1日平均24名の方に来ていただいています。

これは、利用者の居住地です。中町、本町、北町、西久保で3/4を占めますが、そのほか武蔵野市全域から来ていただいています。

今回の皆さんのお声やアンケート、そして5年間の運営を通して、くるみの木は、「楽しく集えるところ」「美味しいものが食べられるところ」「話のできる場所」「心も体も元気になれるところ」「そして、友達のいるところ」、このような場所として強く求められていると考えました。皆さんのご意見から26年度は次のことを目指します。

「土曜ランチの実施」「プログラムの更なる充実」「美味しく栄養バランスの良い食事の提供」「くるみの木をまだ知らない方への広報活動」「高齢者支援課、市民社協、民生委員、在宅介護支援センターとの連携を図り、高齢者を地域で見守る大切な役割を担う」「利用者とのコミュニケーションを大切に、いつでも笑顔で心をこめた対応」を目指します。

基本事業の1つ目は、ミニデイサービスです。その中にボディケア講座、創作ワーク講座とレクリエーション講座を設けました。ボディケア講座は、自立支援体操、ヨガ体操、ピラティス体操、太極拳、ハワイアンフラダンスなど、体の健康を無理せず維持できるプログラムを用意します。ボディケア講座には、多くの利用者が継続して参加できるように2部制にするなど工夫しています。

創作ワーク講座は、朗読、文章講座、パッチワーク、手仕事くらぶ、編み物教室、音楽しましょう、コーラス、布ぞうり、手話ソングなどがあります。朗読は、パーキンソンの方が何人かいらして、大変良いリハビリになっています。手仕事くらぶは、利用者とスタッフが講師となり昨年からはまった講座です。手話ソングは、利用者の要望により生まれた講座です。文章講座では、みなさんの作品をまとめた文集「とまり木」は9冊目となりました。健康麻雀は、くるみの木独自のルールで、出会いを大切に交流麻雀となっています。男性の参加も多く、初心者の方も参加できるようにサポーターが支えます。どの講座も講師の先生方がより良いプログラムになるように協力してくださるおかげで、利用者に喜んでいただいています。

基本事業の2つ目は、ランチです。日替わりランチ、カフェランチ、喫茶事業に加え、新しく始まる土曜ランチです。美味しい食事を楽しみに来所する高齢者は多く、利用者が語り合いながら楽しくランチタイムを過ごせる雰囲気を作り出していきます。くるみの木の食事がその方の食生活を支えている例も多くあります。また、日中独居の高齢者も毎日食事にみえます。日替わりランチは毎日15～20食を用意しています。65歳以上の方は予約ができます。月に1、2度、テーマランチ、健康特集などを設けます。

日替わりランチのほか、どなたでも召し上がっていただけるカフェランチをご用意します。利用者のご要望により、26年度から土曜ランチを始めます。おにぎりとお具たくさん味

噌汁などを用意します。喫茶事業は、地域で誰でも立ち寄れるティータイムの場を提供します。挽きたての豆で入れたコーヒー、紅茶、日本茶、お菓子は手作りパウンドケーキや和菓子、アイスクリームを準備します。

基本事業のほかには、地域向けのイベントや季節の講座があります。イベントには、年1回の周年行事のくるみ祭があります。今では日頃の成果を発表する場として、利用者も楽しみに練習をしたり、作品作りをしています。くるみナイトは年2回、夜、地域の方と交流します。そのほか、クルミマーケット、そば打ち、シェフの日など楽しいイベントを企画し、大勢の方々に来ていただいています。季節の講座は、利用者の希望や講師の方からの提案などで、常に皆さんに喜んでいただけるさまざまなプログラムを提供しています。

3、4組の乳幼児親子の利用も受け入れます。高齢者総合センターと吉祥寺本町の在宅介護支援センターと情報交換の機会を持ちます。地域で高齢者を支える一つの大きな役割をしていることを感じます。

開設以来、ブログはサポーターに支えられています。くるみの木では、利用者の方が口コミでも宣伝していただきます。地域との交流は、武蔵野大学の実習生や1中の職場体験などを受け入れます。お隣の武蔵野赤十字保育園とは、園児が遊びに来ることやくるみ合唱団がお誕生日会に歌いに行きます。また、中央福祉の会やりんどうの会に参加し、中央コミセンのお祭りでは、くるみの木が出店するちぢみが好評です。1小のハロウィンには3年前から参加しています。開設以来、ガーデニングは講師の指導でローコスト、ローメンテナンスのコミュニティガーデンを作っています。季節の花々は、くるみの木を訪れる方だけでなく、通りすがりの方の心も和ませてくれます。時には、お庭でのお食事やお茶を楽しまれる方もいます。いろいろなサポーターに支えられ、くるみの木は暖かい場所になりました。1周年に植えた胡桃の木はまだ実が付きません。これからの5年間で見られることを利用者とスタッフも楽しみにしています。

みんなの思いをまとめました。くるみの木のこれからの5年間の目標は、1日でも長く、一人ひとりの利用者が元気に来てくださること、それを支援することをこれからの5年間の目標とします。

【委員長】 ありがとうございます。それでは質疑応答に移ります。どなたかございますか？

【副委員長】 素晴らしいプレゼンテーションをありがとうございました。今回 6,000 枚のアンケートを配り、改めてニーズを確認しようというのは、素晴らしい姿勢だと思います。残念ながら回収が 90 枚ということですが、どのような方法で回収されたのでしょうか？また、その中で土曜ランチの要望があり、今回新規に始めるということですが、90 枚の中でどの程度の要望、数があったのでしょうか？かなり大変だと思いますが、これに踏み切った理由の一つとしてニーズがあるということなので、どのくらい要望があるのかをお聞かせください。

【ワーカーズどんぐり】 回答が少なかったということですが、私たちとしてはたくさんい

ただけたと思っています。アンケートだけではなく、その前にいろいろな方からそういった声をいただきました

土曜日のランチについては、5年間ずっと考えながらやってきましたが、私たちの事情が許さないということで実現できませんでした。回答数として土曜ランチが非常に多かったということではなく、今までやっている中で、土曜にランチがないかという質問が非常に多かったこと、また、土曜の午前と午後両方のプログラムに参加される方が、一度お昼に家に帰って、もう一度いらっしゃるという状況も多く、土曜日はランチはないの？という声が以前からありました。そういった状況の中、アンケートにも同様の要望があったので、土曜ランチについてみんなで検討し、ニーズに応えていきたいということになり、踏み切ることになりました。

アンケートの回収は、くるみの木に持ってきていただくことと、回収ボックスを中央コミセン、中町集会所、くるみの木に置いたこと、また、FAXでもOKとしました。

【副委員長】土曜ランチの料金はいくらですか？

【ワーカーズどんぐり】400円です。日替わりランチより少し安くしました。

【委員】お疲れさまでした。平成27年度から今の介護保険の要支援1、2の方が介護保険のサービスから外れるということで、今までよりももう少し配慮が必要な方の利用が増えると思います。現在も在宅介護支援センターと連携を取って、そろそろデイサービスが必要な方などの情報交換をしていただいていると思いますが、今後もう少し支援が必要な方について何か予定されていますか？また、現在も送迎支援のニーズが多少あるかと思わずし、今後もう少し増えてくると考えています。こういったニーズについてはどのように考えていらっしゃいますか？

【ワーカーズどんぐり】くるみの木は、今までの5年間では新しいテンミリオンハウスだったので、ほかのテンミリオンハウスに比べると、少し若い利用者が方が多かったと思います。ただ、その中でも徐々に認知症の方も増えてきていますし、これからの5年間については、高齢の方も増えてくるでしょうし、当然見込んでいます。こういった中、在宅介護支援センターとの情報交換は重要だと考えています。現在も日常のことが心配で、在宅介護支援センターと情報交換をしている方がいます。

送迎については、現在も心配でご家族の方が付いてくる方も何名かいらっしゃいます。ワーカーズどんぐりが送迎のサービスを行っているので、それをお使いいただいている方もいらっしゃいます。先ほどおっしゃっていた社会福祉協議会の送迎は、やまびこという障害者のデイセンターの添乗です。

【委員】アンケートの配布範囲について伺います。報告書では、6,000部を中町と御殿山を中心に配られたということですが、利用者の居住地域を見ると、中町が1/3、あとは本町、北町、西久保で1/3で、御殿山というのは数パーセントしかありません。基本的にテンミリオンハウスは通って来られる、極端に言うとは歩いて来られるという場所だと思いますので、アンケートの配布は、そういうところをメインにすべきだったのではないのでしょうか。そ

れから、回収率はもう少しあってほしかったと思います。封筒に入れると回収率が上がります。アンケートと絡めて、地域との交流についても、こういった人がメインだと思いますが、配布の範囲はどういう理由で決めたのでしょうか？

【ワーカーズどんぐり】テンミリオンハウスはもともとカバーする地域が決まっています。ただし、その全部に配るのは多かったので、中心から 500 メートルくらいの範囲で配布しました。御殿山 2 丁目までが担当なので、今回はアンケートとパンフレットを配布するというので、まだ知らない方に知っていただく意味も込めて配布しました。アンケートの形については、透明な封筒にパンフレットとプログラムとアンケートの 3 点セットとしました。回収方法は、後納郵便などいろいろな方法を考えましたが、予算の問題もあり、最終的には、近くのコミセンとくるみの木に回収 BOX を置き、出していただくという方法になりました。

【委員】事業計画について伺います。業務委託費のホームページの管理と財務会計は今までもありましたか？また、金額的には同じくらいですか？また、店舗総合保険料は市のもではなく、賃貸なのでかけているということですか？

【ワーカーズどんぐり】ホームページの管理と財務会計は今までもありました。店舗総合保険は火災保険です。代表者会議で加入した方が良いということになり、加入しました。

【委員】火災保険ですか。ではほかの施設もかけているということですね。

【ワーカーズどんぐり】そうです。

【委員】土曜日ランチを始めるということですが、実際の人員配置について教えてください。予算が限られている中で、調理の方を一人増やすということですが、全体の配置はどのように工夫されるのでしょうか？

【ワーカーズどんぐり】ランチの担当を一人 10 時半から 1 時半まで入れることにしました。そのあとの片づけは他のスタッフがいるので、ランチにかかるだけの予算にしています。

【委員】全体の人件費は決まっていると思いますが、全体の中で調整しているということですか？

【ワーカーズどんぐり】今までよりもその一人分は増えています。

【委員】土曜ランチは 8 食の予定ということですが、カフェランチは何食ですか？

【ワーカーズどんぐり】一日平均 2～3 食です。ランチの時間にお出しできますが、日替わりランチは 65 歳以上の方が優先で予約していただきますが、開設当初提案した際に地域の方にお話ししたところ、民生委員の方から、高齢者にとっては、予約していても行けなかったり、予約してないと行っはいけないと思ったりすることもあるので、いつも出すお食事とは別に、いつ行っても食べられるような状態にしてほしいというご要望がありました。そこで私たちで考えて、日替わりプラス月替わりでもう一品準備しようという形になって、それが今のカフェランチです。大体が麺類ですが、麺は冷凍されたものを購入し、具材はその時々です。多い時で 6、7 食出ることもありますし、日替わりがなくなった時や、主菜がご自分の口に合わなかったりする際にカフェランチを召し上がる方もいます。

【委員長】他にどなたかいらっしゃいますか？

【委員】ご報告ありがとうございます。2点教えてください。

まず1点目ですが、アンケートをされたとき、どのような項目を入れたのかを教えてください。そして2点目は、そのアンケートで拾ったニーズを26年度以降の事業に展開するというので、いくつか新しい取り組みが挙げられていますが、その中でくるみの木をまだ知らない方への広報活動について、具体的にどのようなことを想定されているかを教えてください。

【ワーカーズどんどろ】1点目のアンケートの質問項目については、事業計画書の3ページの下の方に記載されています。「くるみの木を知っているかどうか」「利用したことがあるか」「ない場合は利用してみたいか」「どんなことに利用したいか」あとは自由記入の欄です。

2点目の広報活動については、現在はブログとホームページとニュースレターがありますが、それぞれを充実させていくということです。アンケートの結果や皆さんのお話を伺うと、今まで私たちがやってきたことを大きく変えていく必要はないのでは、と思いました。ただ、その一つ一つを充実させていく、例えばニュースレターの頻度を増やすなどです。それから、チラシの全戸配布をした後は新しくいらっしゃる方が非常に増えたので、1年に1回くらいは全戸配布をした方が良いと思いました。開設以来ほとんどしていなかったもので、知らせるという意味では全戸配布は非常に良いと思います。お金がかかることなので、地域を選ぶなど方法を考えながら行いたいと思います。

【委員】非常に良い取り組みをされているので、このような活動が地域に広がっていくことは重要だと思いますので、今後ともご検討いただきたいと思います。

【委員】早5年という印象です。非常に良いプレゼンをしていただきました。アンケートは非常に手間だと思いますし、行政には絶対にできない細やかさだと感じました。

先ほど三国委員からご質問のあった介護保険が抜本的に見直されていて、要支援1、2が本来の介護保険から外されてというお話がありましたが、厳密にいうとまだ外されてはおりません。できるだけ予防給付は、保険料を払った方への給付として残していただく方向で調整をしております。従って、すべての方が介護保険給付から外されるということはないと思いますが、サービスの種類によっては介護保険の給付から外されることもあるかと思います。要支援1、2の方の受け皿になるのかどうかということと、どれくらいの要介護度の方が現在通っていて受け入れ可能なのかを伺いたい。

10周年の時に発行したパンフレットにレスパイトサービスのご提案をされていましたが、今回の中にはありませんでしたので、その取り組みがどうなっているのかについてお聞かせください。

【ワーカーズどんどろ】一番重い方で要介護2くらいの方です。いろいろなタイプの方がいらっしゃいますので、おひとりおひとりを見ながら考えていきたいと思っています。

レスパイトサービスは5年間やってみた結果、認知もされていなかったとは思いますが、

あまり利用がなかったので、事業としては外しました。ただ、ワーカーズどんぐりとして新たな障害者サービスを始めましたのでそのサービスで受け入れていくということです。くるみの木を場所として使っていただくのはもちろん構いませんが、事業として入れるのはやめました。

【副委員長】現在はテンミリオンハウスの中で一番利用者が多いでしょうか。施設の恵まれているということもあると思いますが、多ければ良いというものではなく、キャパシティというものがあると思います。一日30名ですと10,000人を超えていると思いますが、くるみの木のキャパとしてそれを限度として考えていらっしゃるのか、それとももっと増えた方が良いと考えていらっしゃるのかいかがでしょうか？

【ワーカーズどんぐり】おっしゃるとおり、私たちの考えでは今くらいがちょうど良いとも思いましたが、まだまだ利用される方が増えても良いかなという部分もあります。例えば体操などは、1時間半行うのは多いということに途中で気が付きまして、1回45分の2部制にしました。また、太極拳などでも、1時間続けて行うのは非常に辛いので、グループに分けて1グループがやっているときにはほかのグループは見学する、といったようなやり方など、それぞれのプログラムで工夫をすればいろいろなことが可能ではないかと考えました。私たちもあのキャパで、多ければ良いというわけではないというのはよくわかっています。一番は安全ですが、プログラムを工夫すれば、今来ている方はもちろんですが、くるみの木を知らない方にも来ていただけるのではないかと考えています。

利用者数が多いという原因の一つは、一日中いらっしゃる方が少なく、お昼だけ、午前のプログラムにだけいらっしゃるとか、お茶を飲みだけにいらっしゃるなど、平均してこの人数となりますが、体操の時などは椅子が足りるか心配するくらいです。何もない土曜日などは閑散としている日もありますので、そのあたりを増やせばよいと思います。

【副委員長】閑散が良くないということではないと思います。

【ワーカーズどんぐり】確かに閑散が良くないということではありませんが、もう少し来ていただいても良いかなと思います。素敵な場所ですし、お庭もあるので思っております。ただ、安全が第一なので、そのあたりを考えていきたいと思っております。

【委員長】事業計画書の4ページに、プログラムの更なる充実とありますが、具体的にはどういったことでしょうか？

【ワーカーズどんぐり】具体的にすぐに何かを始めるということではありませんが、5年間やってきて、いろいろなことを講師の方、利用者の方とともに考えながらプログラムを考え作ってきているのですが、今後も常に考えながらやっていきたいということです。具体的に新しいことがあるということではありません。

【委員長】他に何かありますか？では、無いようですので、これでヒアリングを終わります。ありがとうございました。

(2) 推薦団体決定討議

【委員長】 それでは、審議に移りたいと思います。何かご意見はありますか？

【委員】 全体としては非常に前向きに取り組まれていると思います。特に、夜にサロンを開催している点などです。また、何度か訪問させていただきましたが、お食事も美味しいと思います。何といても、やはりもともと社会福祉に明るい団体がベースとなっていますので、ネットワーク形成という意味でもかなり意識されているという印象を持ちます。

【委員】 この団体は、非常に良くできていると思いますし、ヘルパーの資格を15名も持っているということですが、このことは、今後テンミリオンハウスを運営していく中で必要になるということでしょうか？他のテンミリオンハウスでも必要であるのか、それとも必要ないのか、先ほども介護保険の話が出ていましたが、市としてはヘルパーが何人かいてほしいと考えているのか、そこまでは要求していないのか、いかがでしょう？

【委員】 2つの考え方があると思います。もともとこの団体は、介護保険も含めてヘルパー事業を志しているのですから、当然介護保険の事業所としては、ヘルパー2級や介護福祉士の資格が最低限必要なもので、専門性と質という意味では介護保険のサービス提供水準にあると思っています。ただ、現在のテンミリオンハウスの事業評価基準としては、冊子の2ページ目にありますとおり、果たしてそこまでの専門性が必要かどうかという点、今の基準のなかでは考えておりません。ヘルパーとしての専門性はないけれど、スタッフの80%以上が認知症サポーター養成講座を修了していて、要介護度の高いような認知症の方に対するケアは最低限認識しておいてください、ということです。また、地域の支えあいで、がちがちした基準に当てはめず、本当のボランティアな精神で支えあいましょう、という方にもこの事業に参加していただくということであれば、間口は広いほうが良いという考え方と、一方では、現在のような超高齢化社会になってある程度の専門性が必要という考え方があると思います。現時点での市としての考え方は、テンミリオンハウスの事業評価基準をクリアしていただければ良いと考えています。また、今後もっと専門性が必要ということであればこの委員会で評価基準を変更するということが必要になるかと思っています。

【委員】 では、今の段階では認知症サポーター程度で良いということですね。

【委員】 そのとおりです。

【委員長】 先ほど質問も出ていましたが、介護保険制度が変わってきたときに利用者がどう動くか、それによってまた考えなければならない部分は出てくると思います。今の段階では笹井部長がおっしゃったとおりだと思います。他に何かありますか？

それでは、今採点結果が配られましたので、こちらについてはいかがですか？点数は924点です。満点は何点でしょうか？

【事務局】 満点は1,080点です。100的満点に換算すると86点となります。

【委員長】 何点なら推薦できるという線はありませんが、924点なら推薦しても問題はないかと思っています。ただ、今までも感じていましたが、やろうとする気持ちは非常に伝わってきますが、実際にどこまでやったのかという点では、なかなか結果が付いてきていないと

という気がします。プログラムを充実していきたいという気持ちは十分に伝わりますが、どういう具体的な内容でやるのかということになるとよくわからない。そのあたりのギャップを感じます。みなさんはいかがですか？

【副委員長】私は満点をつけました。非常に良くやっている。施設が恵まれているということもありますが、それをよく生かして多くの利用者が来ている。文句なしということですね。

【委員長】他にご意見はありますか？それでは無いようですので、「特定非営利活動法人ワーカーズどんぐり」を推薦団体として決定したいと思います。

【事務局】推薦のご決定をいただきましたので、最終的には委員長から市長に対して文書をお出しするということとなります。その内容については委員長と事務局で調整することよろしいでしょうか。

【委員一同】結構です。

(3) その他

【委員長】その他については無いようですので、以上を持って本日の委員会を終了したいと思います。

4 閉会

以上